

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

No. 1

岐阜県立土岐紅陵高等学校 学校番号 47

I 自己評価

1 学校教育目標	1 自己の在り方や生き方を主体的に考えるとともに、思いやりのある人間を育成する。 2 社会で求められる資質や品格を身に付けた人間を育成する。 3 地域社会に貢献する人間を育成する。	
2 評価する領域・分野	家庭地域連携活動・広報活動	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	9項目すべてにおいて、肯定的評価が70%以上となり、下記の達成度の判定基準を満たした。(←昨年度は八項目中の五項目が該当) 「わからない」の回答率については、「5.教育方針の伝達」において増加し、「8悩み、相談への適切な対応」について減少した。また、新しい項目「12個人情報等の適切な管理」については、「わからない」の回答率が他と比べて比較的高かった。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇家庭や地域との連携を大切にした教育活動を推進します。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1)コミュニティ・スクールとしての特徴を生かし、家庭や地域との連携をいっそう密にし、生徒の成長に向けての協働を追求する。 (2)広報活動の充実をはかるとともに学校を見てもらう機会を積極的に設けることにより、いっそう「開かれた学校づくり」を進める。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 学校運営協議会での協議を通し、家庭や地域との連携をいっそう密にし生徒の成長に向けての協働を追求していく。 ② 地域と連携した探究学習を推進する。	① 学校評価における「家庭や地域との連携」の項目における肯定的な評価が70%以上になる。 ② 学校評価における「学校独自項目」の「総合学科の高校として…」 「体験学習」 「課題研究的学習」に関わる項目における肯定的な評価が70%以上になる。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 学校運営協議会の3回実施と基調アンケートの実施。 ② 地域と連携した地域課題探究学習の強化。 ③ オープンデー(4回)実施。 <中止>1年生(地元企業)体験学習、土岐商工会議所と連携した企業説明会、中学生一日体験入学、土岐市社協主催の「福祉学び塾」の本校開催と協力、地元中学校への出前講座の開講	①地域との連携がなされ成果がみられたか。 ②地域と連携した探究学習により成果が見られたか。 ③オープンデーなど、学校見学会を含めた広報活動に効果が見られたか。	(A) B C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○「学校の教育方針や指導内容の家庭(地域)への伝達」については大きく評価が上がった。 ○地域課題探究学習を実質的に開始した。特に2年次生が土岐市より提案を受けた「第六次総合計画」を基盤とした探究学習を実現し、「土岐市駅前商店街の活性化」「読書率の向上」「健康寿命の延伸」「土岐市のPR」という4つのテーマで、フィールドワークを行うなど、課題解決に取り組んだ。 ○「保護者の悩みや相談に適切に対応している」のわからないという回答が減少し、肯定的評価が上がっている。 ▲ コロナ禍で、地域連携行事や学習機会をどのように実施できるかの可能性を探る必要がある。	
12 来年度に向けての改善方策案	今年度、実質的に始動した「地域課題探究学習」を、土岐市との協働で推進していく方向である。地域の実体ある素材を探究学習に生かすことで、高校生の社会生活への意識を高めるとともに成長に期待したい。コロナ禍での課題もあるが、ICT、オンラインの活用を視野に含め、地域の方たちに極力教育現場に入ってもらえるよう、計画、工夫する。 学校ホームページの更新について、広報担当者から、各イベントの担当職員に記事を作成するよう要請し、随時アップできる体制のシステム化を推進する。(昨年度からの継続)	
実施年月日：令和3年2月8日		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月8日

【意見・要望・評価等】 ・「学びのフィールドは地域にある」ので学校の外に出て学ぶことが大切である。
--

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

No. 2

岐阜県立土岐紅陵高等学校 学校番号 47

I 自己評価

1 学校教育目標（略 No.1参照）

2	評価する領域・分野	◇進路指導	
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「保護者が必要とする情報提供」と「進路希望に沿った適切なアドバイスをしている」は70%以上の高評価となっているが、80%以上の評価がいただけるように生徒及び保護者の要望にこたえていきたい	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の生き方・在り方指導を中心として、生活や人生を考え、生徒が誇りある選択ができる能力や態度を育てる。	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	(1) 進路意識の高揚及びキャリア教育の充実を図る。 (2) 進路支援・情報の積極的な発信に努め、全職員による指導体制の確立を目指す。 (3) 進路実現のため、自身の未来を自らの力で切り開く姿勢を育む。	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	①各種ガイダンスや適性検査を通して、自己の適性を見出したり、将来の職業について考えたりすることで、キャリア形成ができるよう支援していく。	①感想、アンケートや各種検査結果により達成度を判断する。	
	②活性化推進部や学年会と連携を図り、働くことの意義を理解させることによりキャリア形成につなげる。	②キャリア形成に関する学習において、その目標を達成できたか自己評価させる。	
	③「産業社会と人間」・「総合的な学習」・「LHR」の授業を通して、キャリア教育の充実を図る。	③職業に関する知識つけさせ、コミュニケーション能力の向上や自分の将来像を明確にさせる。	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
	①進路ガイダンス、企業や上級学校見学を実施するなど、キャリア形成に関する行事を実施した。	①各行事に参加や受講後、意識が高まり、自分の将来について考えることができたか。	A (B) C D
	②3年次生に対して「メイクアップ講座」、「着こなし講座」や「租税教室」などを実施した。	②身だしなみの大切さや納税者としての心構えを身につけることができたか。	A (B) C D
11	成果・課題	総合評価	
	○活性化推進部や学年会と連携を図り、キャリア形成に関する行事を実施することができた。卒業後の進路選択や将来の職業について深く考えることができたと感じている。 ○コロナウイルス感染症流行の時期であったが、3年生の進路決定において第一希望で決定した生徒が多数出た。「キャリアプランナー」の助言や指導により、オンラインによる入社試験に対しても滞りなく対応できた。 ▲上級学校の一般入学試験受験者に対する指導がやや不足した。	A (B) C D	
12	来年度に向けての改善方策案		
	(1) 進学希望者に対して、入試方法に関するアドバイスや学校選びのアドバイスを実施する。また、進学補習を充実させ、学力試験にも対応していく。 (2) キャリア形成に関する指導を活性化推進部を中心に進路支援部、学年会でうまく連携を取りながら、生徒の進路実現のサポートに努めていく。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月8日

【意見・要望・評価等】

・働き方改革との兼ね合いもあるが、今後も丁寧な進路指導を続けていただきたい。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

No. 3

岐阜県立土岐紅陵高等学校 学校番号 47

I 自己評価

1 学校教育目標 (略 No1参照)

2 評価する領域・分野	◇学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	学校評価(保護者)の「学習指導」に係る項目のうち「授業を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」の肯定的な評価が一昨年度が60%、昨年度が65%と上昇傾向であるが、まだ少し低い。少人数授業の特色を生かし、授業中の個別指導の機会を増やす等の工夫をしていきたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	学力とコミュニケーション能力の向上を目指した教育活動を推進する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1)「学び方」や「学ぶ力」を身に付けさせるとともに、「学ぶ楽しさ」を感じさせることができるよう、「できなかったことができるようになった」場面をできる限り多く設ける等の授業改善に取り組む。 (2) コミュニケーション能力の向上を目指し、対話の場面を取り入れる等の授業改善に取り組む。 (3) ICTを活用した授業実践に取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①「できなかったことができるようになった」場面をできる限り多く設ける等の授業改善に取り組む。 ② コミュニケーション能力の向上を目指し、対話の場面を取り入れる等の授業改善に取り組む。 ③ ICTを活用した教育活動について、実践を通じて研究を進める。	① 学校評価の「学習指導」に係る項目における肯定的な評価が70%以上になる。 ② 「対話の場面を取り入れる」等の工夫をした授業を、全ての教員が年に3回以上実施する。 ③ ICTを活用する授業を実践するための職員研修会を行い、研究授業を実施する。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①教材を共有化したり、教え方の工夫等を教科会で交流したりした。 ②今年度は新型コロナウイルスの影響で、授業公開週間は1回しか設定できなかったが、中学生の高校見学が4回あり、授業改善を意識した授業を実践する機会は確保できた。 ③一斉休校中にオンライン学習支援を行ったため、多くの教員がプロジェクト等ICTを活用した授業を抵抗なく展開している。	①わかる授業が実施されているか。 ②「主体的・対話的で深い学びの授業」が実施されているか。 ③ICTを活用する授業が実施されているか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	総合評価 A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案 一人一人に丁寧に対応した授業を展開していくのに、「1人1台タブレット」(MetaMoJi Classroom)の活用が一つの方策ではあるが、タブレットをいかに管理するかということや「MetaMoJi Classroom」を使いこなせるかという不安がある。しかし、少しずつ実践をし、それを交流していくことで、授業改善を進めていきたい。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月8日

【意見・要望・評価等】

・コロナ禍の中で、オンライン授業など色々な工夫をしていただいてありがたく思う。

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

No. 4

岐阜県立土岐紅陵高等学校 学校番号 47

I 自己評価

1 学校教育目標（略 No1参照）

2 評価する領域・分野	◇生徒指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	学校評価(生徒)の「生徒指導」に係る項目のうち、「本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている。」の肯定的な評価が83%（昨年度77%）であったが、コロナによる長期休業の影響からか校内外で落ち着いた雰囲気を感じられないため、より注意深く一人ひとりの言動に気を配る必要がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を目指した生徒指導を推進します。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	(1) 関係機関や外部職員との緊密な関係と情報共有 (2) 機を逃さず適切な生徒指導が行える組織的対応を実践する。 (3) 予防的な教育活動に積極的に取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭や地域とも積極的に連携しながら指導します。 ②適切な生徒理解に努めるとともに、個別支援の視点を積極的に取り入れ、個々の状況に応じた指導を行います。 ③様々な人権侵害行為（SNS等）やいじめの未然防止と危機回避及び危機管理能力を育てる指導を行います。 ④あらゆる機会において、自主性・積極性・協調性を養うとともに、規範意識を養い、公共心・道徳心を育てることを意識した指導を行います。	①学校評価における「生徒指導」に係る項目における肯定的な評価が70%以上になる。 ②転退学者や長期欠席者の人数を前年度以下にする。 ③左記の内容に係る職員研修会を年に2回行い、全校一斉人権LHRを実施する。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①月に1回の遅刻指導と身だしなみ確認の実施 ②スクールカウンセラーによる個別懇談（のべ34回、11人） ③全校集会でいじめ、命、安全・安心に関する講話を実施（4回） ④職員対象のいじめ・教育相談研修をそれぞれ1回実施 ⑤いじめアンケート（3回）生徒支援アンケート（2回）心のアンケート（11回） ⑥統一人権LHRの実施（1年2回、2年1回） ⑦恩田聖敬氏による「自分らしい人生、大切に」講話の実施 ⑧生徒支援通信や教育相談通信の発行	①単発的な指導で終わらず、指導後に改善が見られる。 ②生徒へのアンケート調査から挙げた事案に適切に対応できる。 ③学校評価における「生徒指導」に係る項目における肯定的な評価が70%以上になる。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	総合評価 A (B) C D	
○統一人権LHRの実施は、主体的で深い学びとなった。次年度以降も継続して生徒が主体的に学べるような取り組みを実施していきたい。 ○コロナ禍の対応から始まったメールによる心のアンケートの実施により、生徒からの悩みや不安の声を把握し、素早く対応することができた。 ▲生徒がアンケート慣れしてきているのではないかと懸念される。アンケートの結果はあくまでも生徒理解の一助とし、普段からの生徒観察とコミュニケーションから生徒理解に努めていく姿勢を徹底したい。		
12 来年度に向けての改善方策案 (1) 保護者とともに生徒を育てる視点を大切にして、連携をさらに深めるためにも情報発信を効果的に行う。 (2) 教職員の教育相談やいじめ対応に関するスキルアップを積極的に行うとともに、組織対応を徹底する。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月8日

【意見・要望・評価等】

・コロナ禍で初期指導が難しかったと思われる。より丁寧な指導が望まれる中で、今後も様々な取り組みを行っていただきたい。